水稲・大豆栽培情報６月号

令和元年５月３０日
Ｊ　Ａ　柳　川
南筑後普及指導センター

【水 稲】

１　田植え

トビイロウンカの被害や登熟期間の高温遭遇による品質低下を防ぐため、早植えは行わず、適期植えを行います。また、密植は倒伏や病害虫が発生する原因となるため、避けます。

＜移植時期＞	＜栽植目安＞
「夢つくし」：６月１５日～ 「元気つくし」、「実りつくし」：６月２０日～ 「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」：６月２４日～	坪当たり 50～60 株 １株当たり 3～4 本

２　病害虫防除

◇「元気つくし」、「実りつくし」・・・・・・・・・・防人箱粒剤
◇「夢つくし」、「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」・・ゼクサロンパディート箱粒剤

＜留意点＞

・効果の安定のため田植え前日までに散布します
・確実に５０ｇを施用します（薬量が少ないと効果が不十分）
・散布後は薬剤定着のため軽くジョロで灌水します

３　雑草防除

農薬の使用基準に従い使用期間内に除草剤を使用します。田植えから除草剤の散布まで日があくと雑草の生育も進むため、使用時期が遅れないよう注意します。

＜水管理＞

・除草効果の安定のため、田面を均平にし、散布後７日間は湛水します
・除草剤成分の河川への流亡を防ぐため、散布後７日間は落水できません
（漏水に注意）
・田植え同時処理を行う場合は、移植後速やかに入水します
（土の戻りが悪いところでは使用を避けます）

４　麦わらすき込み田の水管理

麦わらをすき込んだほ場では、ガスが発生し生育障害を起こすことがあるため、ガス抜きを行います。

＜水管理＞

・除草剤散布後、７日以上経過してから強制落水し、ガス抜きします
・落水後もガスが発生する場合は、間断灌水を行います（3～4 日おきに湛水と落水を繰り返す）

5　麦わらのすき込みについて

麦わらは焼却せず、土づくりのためにすき込みましょう

＜水稲作前の麦わらすき込みのポイント＞

①深耕する
・麦わらが短いと浮き上がりやすいため、やや長め（20cm 程度）に切断します
・麦わらが田面に残らないように、やや深めに耕して土中へ埋没させます

②代かきの水は最小限度で（潟かき）
・尾輪の跡に水がたまる程度のごく浅水で、荒代かきを行います
・麦わらの浮き上がり防止のため、代かきのときはロータリの回転は遅くします

③基肥を増肥
・麦わらの分解の際に微生物が土壌中の窒素を使用するため、わらをすき込んだほ場は窒素を増肥（10a あたり窒素成分で２kg）して、生育を確保します
・窒素を増肥することで、わらの分解を促進することができます
・わらすき込み開始から３年間は増肥します

④田植え後の水管理の徹底（間断かん水でガス抜き）
・麦わらの分解で発生するガスにより、稲の活着が悪くなることがあるため、水管理を徹底します
・田植え後、除草剤散布までの間は浅水とします
・除草剤散布後１週間は湛水し、その後は間断かん水してガス抜きを促進します

＜大豆作前の麦わらすき込みのポイント＞

①麦わらの細断
・播種の際に回転ロールに支障がないように麦わらを細断し、ほ場に均一に散布します
②深耕する
・プラウ耕や深めのロータリー耕により土壌深くに混和します
③播種
・耕起時の砕土、播種後の鎮圧をしっかり行い、出芽率を高めます

【大 豆】

1　播種前作業

○土づくり

◇土壌改良資材の施用（大豆は酸性に弱い作物です）

大豆栽培に適した土壌条件：pH6.0～6.5

※投入量の目安：炭酸苦土石灰、ミネラルＧ（160～200kg/10a）

◇有機物の施用（収量向上には地力の増強が必要です）

麦わらの全量すき込み、堆肥の施用、腐植酸質資材の「アヅミン」（40kg/10a）等

○排水対策

出芽時は特に湿害に弱いため、地表排水と地下排水を組み合わせます。

◇地表排水：周囲溝や枕地作溝、排水口へのつなぎ溝等を整備します。

◇地下排水：本暗渠と弾丸暗渠を組み合わせることで、排水効果が高まります。

○施肥

◇一般：基肥として PK 化成 40 号(30kg/10a)を施用します。

◇遅播き：PK 化成 40 号(30kg/10a)＋ちくごのめぐみ 444(15kg/10a)を施用します。

2　播種

○種子消毒

紫斑病防除、ハトによる食害の回避等のため、必ず種子消毒を行います。

◇キヒゲンＲ－２フロアブル・・・種子 5kg 当たり 100ml を塗沫します。

○播種時期と播種量

播種時期	7 月 5～20 日（適期播き）	7 月 21 日～（遅播き）
播種量	３～５kg/10a	６～９kg/10a

○播種深度

播種の深さの目安は 2～3cm とし、土壌の水分状態に応じて調整します。

（土が乾燥している場合はやや深めとします）

3　雑草防除（令和元年 5 月 31 日現在の登録情報に基づいて作成）

使用時期	薬剤名	10a当たり 使用量	10 a 当たり 希釈水量
耕起前 ※雑草多発ほ場	ﾗｳﾝﾄﾞｱｯﾌﾟ ﾏｯｸｽﾛｰﾄﾞ	200～500ml	100L
播種後 ～出芽前まで	ラクサー乳剤	400～600ml	
	プロールプラス乳剤 ※イネ科雑草多発ほ場		
	ラクサー粒剤	4～6kg	―

※前年に「もちだわら」を作付したほ場では、必ずプロールプラス乳剤を使用します

農薬使用上の注意

１　散布前に必ず農薬ラベルを確認！

２　散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策を徹底！

３　散布後は必ず散布器具(タンク、ホース等)を洗浄！

４　防除履歴の正確な記帳！